

皆さんは「優しさの器」をご存知でしょうか。私が初めて耳にしたのは、4年前の子育てに関するところある講話でした。子どもは、この「優しさの器」を必ず持っているのだそうです。

講師が言うには、子どもが優しくなかったり、そうでなかったりするのとは、この器が関係しているのだとか。この器が優しさでいっぱいになり、あふれ出したとき、あふれた優しさが周囲への優しい言葉や行為となって表れるのだそうです。

例えば、兄弟やお友達と比べて、この子は優しくないな、と思ったからそれはその子の器がまだ優しさで満たされていないからなのだと思います。この器は人によって大きさが異なり、小さい器はすぐにあふれ出します。けれど大きい器は、家族や周囲の人から同じ優しさを受けていても、なかなか満たされないため、「優しさが足りない子」と思われてしまうそうです。

講師は、「持っている器の大きさは、兄弟でも全く違う。だから、同じようにしているのにどうしてこの子は優しくないのだろう、などと比べないで。周りの大人が優しくしたり、人に優しくする様子を見せると、必ず器はいっぱい

「優しさの器」

なるから心配しないで」と言っていたのを覚えています。

この器の話は、大人にも当てはまるのではないのでしょうか。周囲の人から優しくされたら嬉しいと思いますし、誰かが人に優しくしている様子を見たときには、それだけで心が温かくなったり、自分も人に優しくしようと思ったりします。けれど、辛いことがあったり、ストレスが溜まると、回復するのに器の中の優しさを消費してしまうのだと思います。だから、人に優しくできたりできなかったりするのでしょうか。再び器がいっぱいになったら、また人に優しくなれるのです。

「優しさの器」は誰もが持っています。人の器を満たすことのできる人になりたいと思います。

※このシリーズは、あなたとあなたの周りのいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会
☎ 880・6569